

第8回同窓生の集う会 北海道開催報告

備を始めました。北海道らしさをテーマに挙げたため、集う会に先立って行われた北海道日本ハム

今回、「集う会」持ち回り支部開催の先陣を切ることに、支部役員会の面々から実行委員会を発足し早い時期から準備

八月三十日、本部総会である「第八回同窓生の集う会」と「第六回同窓会北海道支部総会」が北海道札幌市にて同時開催されました。会場には、同窓生・教職員の方々が総勢百十名余り集い、昭和五十年から平成十一年度卒業生まで親子ほど年齢の違う面々が一堂に会し、学生気分に浸り楽しいひと時を送ることができました。

ファイターズ前オーナー代行である小嶋武士氏の講演会や、懇親会の余興で行われた、北海道を代表するお祭りになったヨサコイソーランなどを企画するのには大変苦労をしました。しかし、北海道には千四百名を越す卒業生がおり、卒業して三十年も経つと多方面でご活躍し要職に就いているもので、その縁が



昭和五十五年電気工学科卒
北海道支部長 大道宏満さん

あつてこうして彼らをお呼びすることができ、改めて同窓生のネットワークの広さと強さには感心させられました。

最後に、集う会を開催するに当たり、本部事務局の応援、多数ご出席頂いた教職員の方々、実行委員会でご準備に当たってくださった方々に厚く御礼を申し上げます。来年は東北支部で会いましょう！



八戸工業大学同窓会のたすき お披露目

フアイターズ前オーナー代行である小嶋武士氏の講演会や、懇親会の余興で行われた、北海道を代表するお祭りになったヨサコイソーランなどを企画するのには大変苦労をしました。しかし、北海道には千四百名を越す卒業生がおり、卒業して三十年も経つと多方面でご活躍し要職に就いているもので、その縁が



HIT Alumni Association Journal 八戸工業大学 同窓会報

第14号

3月・9月発行

八戸工業大学
同窓会本部事務局

TEL:0178-25-8027

FAX:0178-25-6183

「平成二十一年度 感性デザイン学科同窓会誕生」

感性デザイン学科

学科長・坂本慎智

平成二十一年度、八戸工業大学同窓会に感性デザイン学科が新たに加わります。本学科は、少子高齢社会、資源循環型社会の背景を

同窓会事務委託の契約締結

八月二十五日 大学にて白川直人同窓会会長（写真右）と㈱イーピーエス代表取締役社長 中村充氏（写真左）との間で同窓会事務委託の契約についての調印式が行われました。

増え続ける会員数に対し、正確な作業と永続的な活動のために同窓会事務局業務の一部を外部に委託することは兼ねてからの検討事項でした。委託会社選出については、選定基準として専門性・セキュリティ・価格・利便性などを重点に情報収集し、数社の比較表を代議員会等で審議検討を重ねた結果、㈱イーピーエスを指名致しました。

理解し、幸福な社会づくりに積極的に携わることができる感性豊かな人材を育成し、地域産業の振興、発展、並びに地域住民の健康促進、くらしの充実に広く貢献することを目指すとして、二〇〇五年四月に設立されました。時代の価値観を身につける「福祉・健康・くらし」の教育、伝えたい思いの「創造・表現」能力育成、伝える技能の「コミュニケーション」能力育成を教育の三本柱とし、人間力養成に努



調印式同席者

八戸工業大学学務部
同
株式会社イーピーエス

学生課長
学生課書記
コーディネーター

高坂 茂
田島 尚幸
浅本 寧枝

変更等の電話代行受付など従来大学内で行っていた業務を一括委託することで、より経済的で効率的な運営と迅速な作業が可能になります。また、会員の皆様により充実したサービスを提供することで同窓の絆が更に広がり、親睦が深まることで、同窓会活性化に向けて前進することが期待できます。

めて参りましたが、いよいよその一期生が社会に旅立ちます。現在、同窓会の名称、組織等について検討を行っております。同窓生の皆さん、新しい分野の仲間をどうぞ暖かく迎え下さい。本学科は、平成二十一年度から創造、表現力分野の充実を図り、「ビジュアルデザインコース」と、「環境デザインコース」の二コース体制で教育を行い、更なる社会貢献を目指す。

機械情報技術学科 蒼峰会だより

八戸工業大学の 英語教育について

機械情報技術学科・准教授

高橋哲徳



同窓生の皆様におかれましては、お元気でご活躍のことと存じます。早いもので私が本学に赴任してから十四年の月日が経ちました。その間、総合教育センターから機械情報技術学科に所属が変わり、併任期間を含めまして六年が経過しようとしています。中心的研究分野はアメリカ文学ですが、本学では主に英語教育を担当してきておりますので、ここでは本学の英語教育改善活動の一端を紹介させて頂きます。

国際化、情報化の進展に伴い、高等教育機関における英語教育に

関しては様々な社会的要請が寄せられています。本学に於いて言えば、英語教育の改善活動に最も大きな影響を与えたものの一つは、本誌においてもしばしば話題となつていますがJABEE（日本技術者教育認定機構）受審であると言えるでしょう。現在工学部の四学科が認定を受けているJABEEの認定基準には、その一項目として「国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」の育成が明確に示されており、本学の英語教育は、各学科における専門教育と同様に、グローバルに活躍できる技術者育成のための効果的な実施が強く求められる環境にあります。もちろん、それ以前から、新入生対象の開講試験の実施、習熟度別・少人数のクラス編成の導入など、多くの改善活動を進めてきていたが、外部機関による審査を念頭に置いた英語教育の見直しは、良い意味で緊張感のある教育体制作りによって大きな影響を与えています。具体的には以下の例が挙げられます。

第一は、英語学習への外部試験の導入です。ともすると教員の独りよがりになりがちな教育内容やその水準を、社会的に認められ得るものとするために、本学では工業英検対策演習とTOEIC対策演習を英語教育に取り入れています。工業英検、TOEICはともに毎年多くの社会人、学生、生徒が受験する英語能力判定試験ですが、現在は一年次からそれらの資格試験を念頭に置いた英語教育を行っています。「何を学ぶのか」という学習目的・目標の明確化と、「何のために学ぶのか」という学習者の動機づけという点からみても、こうした資格試験対策演習の活用は大変有効です。

第二は、基礎的英語力の不足への対応としてのリメディアル教育です。これは、本学入学者の過半を占める専門高校出身者の英語履修歴を考慮して、一年次に開講されている授業であり、本学のみならず全国的に進行している大学入学者の多様化への対応として重要な役割を担うものです。受講を希望した学生達は各自の習熟度の不足を補うための学習に熱心に取り組んでいます。さらに平成十八年度からは、本学入学者に適したオリジナルの基礎英語用テキストの

作成のために、学内のプロジェクト研究助成を受けています。今年度完成予定で現在作業中ですが、こうした試みも継続的改善活動の成果の一つであると言えるでしょう。

また、「生きた英語」に触れ、実際のコミュニケーション能力と異文化理解力の養成を図ることを目的として、海外語学研修も毎年実施してきています。二〇〇三年に姉妹校協定を締結したウェスレー大学（米国「アラバマ州ドーバー市」）での語学研修と、ワシントンDC、ニューヨークの博物館、美術館の見学等から成るこの研修には、感性デザイン学科二年生は準必修扱いの「学外研修」としてほぼ全員が、工学部生は「主題別ゼミナール」の一科目として十名程度の学生が例年参加しています。特に昨年度は、協定締結五周年記念行事としてウェスレー大学で「お茶会」を催し、ウェスレー大学学長、副学長、ドーバー市長などをゲストとしてお迎えし、参加学生がお手前を披露しました。英語の学習はとなく「受け身」のものになりがちなものですが、ドーバーの地元紙に紹介記事が掲載されるほどの好評を得たこの試みは、日本文化を英語で「発信する」経験が英語学習に与える影響

の大きさをわれわれに再認識させてくれました。

最後に挙げられるのは、JABEE基準においても重要視されている、専門教育と英語教育の連携です。上で述べた工業英検対策演習などはその中心であり、三年前期まで継続されている英語教育は、その後、各学科の特徴を活かした教育へと接続されており、「卒業研修」での英語論文講読、FE試験問題を教材とした英文読解などの授業が全学的に行われています。私も一昨年度、機械情報技術学科三年生用の教材として、学科教員が学会誌に発表した英語論文にある英文の読解を通して、一・二年次の学習事項を復習するための小冊子を作成しました。四年間一貫教育という本学の教育方針に基づく、専門教育と英語教育の連携も年々充実したものになりつつあります。

言うまでもなく、このような改善活動には「終わり」はありません。全学的に行われている学生の授業アンケート結果などを反映させながら、より効果的で学生満足度の高い英語教育体制の構築を目指して、今後も担当者全員が活動を継続していきます。

電子知能システム学科 水交会ニュース

OB・OGだより



浅利 能之 さん
昭和52年電気工学科卒(佐藤研究室)
現在：青森県立 弘前工業高等学校 校長

涼とした原野に聳える校舎には、種々のアイテムを持った個性的な神々がいて、本当に素晴らしい経験をさせてくれました。

卒業後に工業高校の教員となり、教育委員会での指導主事、そして校長の仕事をしている現在まで必要であったすべての経験が、この舞台に、八戸工業大学にあったと思います。母校に心からの感謝と乾杯を！

水交会活動報告

八戸工業大学で過ごした日々は、人生の折り返し地点を過ぎた今、自分自身の人生の物語の中では、神話の時代だったように感じています。

唸る電動機・発電機の実習、お気に入りの何といっても高電圧発生装置での放電実験、カタカタと東北大学から送られてくるテレタイプ端末での数値計算プログラム、合宿入合宿の数学ゼミナール、英語の物理の教科書、体育はレスリング、代議士の先生も参加してくれた南部会館での初めての学生コンパ、中島みゆきが歌った大学祭、凍える美術部室での創作活動…etc.etc. キーワードだけでも限らない思い出が溢れてきます。神話の舞台となった赤土の荒

去る五月十日に、八戸市湊町「やま文」にて水交会役員会・懇親会が開催され、今年度より電子知能システム学科長に就任した関教授と同窓会事務局の信山講師が同席しました。

役員会では、菅野水交会長より水交会役員および八戸工業大学同窓会役員の選出案が提示され、審議した結果異議なく了承されました。水交会の新役員は、水交会のホームページで紹介しております。また、役員からは、水交会の活動を活性化させるために、電子メール等を駆使して同窓会役員間の連絡を密にすべきとの意見が出されました。



懇親会では、始めに関学科長より大学の近況について報告があり、その後参加者全員で親睦を深めました。その中で、菅野会長より、本学創立時の卒業生の多くが企業において重役を担っていることを大学にも認識頂き、同窓会と大学の発展を推し進めるためにも、本学創立時の卒業生を始め、同窓生と大学間の交流を深めるべきとの意見が出されました。



学科近況報告 「水交とは？」



電子知能システム学科
学科長 関 秀廣 教授

四月より坂本禎智先生から学科長を引き継ぎました関です。宜しくお願い致します。

就任早々、五月十日に水交会の役員会に出席させて頂きました。会長の菅野義明さんから、「そもそも、水交会」の言われとは…」の訓示を頂戴しました。由来は『莊子』の「君子之交淡若水」。意味は「君子の交わり淡き水のごとし」で徳がそなわった人の交流は、水のように淡々として、いつまでも飽きがこないで長続きし、逆にべたべたしたつき合いはすぐに飽きがきてしまうのだとのこと。なるほどと頷きながら、懇親会ではベタベタの「酒交会」になつてしまいました。しかしながら、八戸工業大学を全面的に支援するとの言葉に大変心強く感じた次第です。

今、科学技術離れが深刻になつており、理科教育の危機です。大学でも様々な取り組みを通して人材育成を心がけていま



本学科のコンピュータ室に集う1年生達



本学科に新設された学生憩いの空間 E-ラウンジ

す。こうした日々の学科の変化を「Letter」と題して一週間に一回程度本学科のホームページに掲載していますので、何かの折りに御覧下さい。同窓生の皆様には今後何かと御支援をお願いすることになります。どうぞ宜しくお願い致します。

環境建設工学科 シビル会通信

「1968年十勝沖地震四十年防災フォーラム」

平成二十年五月十日（土）に「一九六八年十勝沖地震四十年防災フォーラム」過去に学び、将来に備える」を開催しました。フォーラムでは、一九六八年十勝沖地震から四十年の節目の年を迎え、地域の防災について市民とともに考え、被災から四十年間の防災技術の発展と課題に関する諸テーマについて専門家の講演を行いました。会場には二百二十名もの方々に参加いただきました。参加いただいた皆様、御協力いただいた防災関係機関に感謝の意を表します。



公開講座 開催！

「青森・岩手県境不法投棄現場を見に行こう！」



平成二十年九月十三日（土）に県境不法投棄現場見学会を開催しました。四十名の方々に参加いただき国内最大級の産廃不法投棄現場見学を通して、地域の抱える環境・社会問題、環境建設技術の重要性、そして現地の環境再生のあり方を考えていただく、良い機会となりました。

平成二十年度 シビル会同窓会開催

平成二十年八月二日（土）八戸グランドホテルにおいて、平成二十年度シビル会幹事会・同窓会を開催しました。

幹事会では、夏堀新会長の進行のもとシビル会活動について様々な意見交換を行いました。特に、シビル会幹事制度の見直しについて、現幹事に対して今後も協力いただけるか意思確認を行うことになりました。



また、幹事会は年一回実施することを決定しました。なお、今年度末でシビル会が三十周年を迎えることから、来年度にシビル会三十周年記念行事の開催を検討することになりました。同窓会で四十八名の同窓生および教職員が参加し盛大に行われました。久しぶりに会う同期生や教員との思い出話や近況報告をするよい機会になったと思います。また、当日は三社大祭中日も重なり交通状況の悪い中出席いただいた参加者の皆様に御礼申し上げます。

環境建設工学科新入生 オリエンテーション

平成二十年度環境建設工学科新入生オリエンテーションを平成二十年五月十五日（木）、十六日（金）の一泊二日で行いました。見学場所は、土橋川放流トンネル、東北新幹線（八戸・新青森間）軌道工事現場、七戸駅建設現場、青森・岩手県境産廃不法投棄現場などです。

オリエンテーションを通して環境建設工学の重要性や、環境保全の意義への認識や各分野の技術を総合した実際の取り組みについて、理解が深まったと思います。



建築工学科 拓北会

橋本先生

学会賞を受賞

橋本先生が今年度の建築学会賞(論文)を受賞されました。

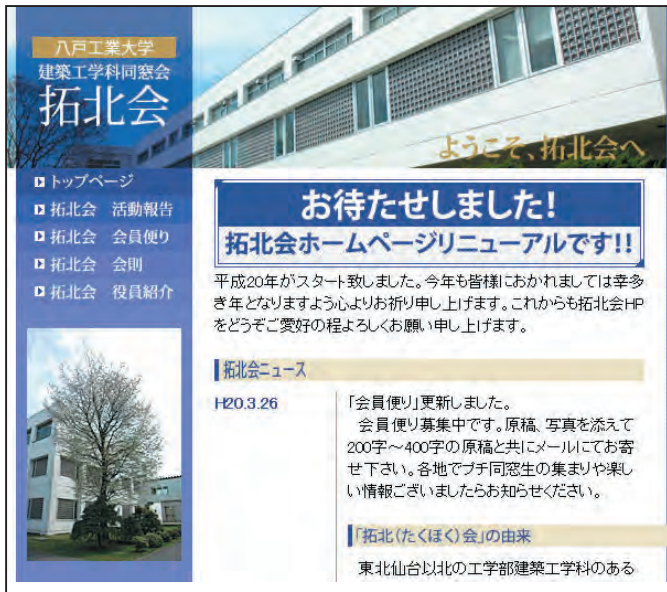
橋本先生の研究は、集合住宅等で特に問題となる上階からの足音などの音の性能予測法に関するものです。こうした音は問題が発生しても建設後の対策は殆ど不可能であるため、設計段階での性能予測が特に重要となります。研究では拡散度指数という新しい概念を

導入して、精度と適用性に優れた予測手法を開発したものです。その成果は、「拡散度法」の名称でフリーソフトとして社会に公表され、多くの建設会社や設計事務所で利用されており、住環境の向上に大いに寄与していることが評価されての受賞となりました。

また、これに関連する著書「2階で子どもを走らせるなっ!」(光文社)が出版されています。ご興味のある方はご一読されてはいかがでしょうか?

拓北会事務局より

拓北会では昨年ホームページをリニューアルして皆様へ発信しております。拓北会会員の皆様は全国各地(世界)でご活躍されております。ホームページでは学内・同窓会イベント(後援会や集う会、総会ほか)をはじめとする活動報告や最新情報、役員紹介、会員便りなどが掲載されており、同窓生の集う場として、大学、地域との連携も図りながら少しずつ楽しく充実を図っていきたくと思っています。各地会員の身近な情報や楽しいお話、ご意見などお気軽にメールにてお寄せ下さい。



八戸工業大学
建築工学科同窓会
拓北会

- トップページ
- 拓北会 活動報告
- 拓北会 会員便り
- 拓北会 会則
- 拓北会 役員紹介

お待たせしました!
拓北会ホームページリニューアルです!!

平成20年がスタート致しました。今年も皆様におかれましては幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。これからも拓北会HPをどうぞ愛好の程よろしくお願い申し上げます。

拓北会ニュース
H20.3.26

「会員便り」更新しました。
会員便り募集中です。原稿、写真を添えて200字〜400字の原稿と共にメールにてお寄せ下さい。各地でプチ同窓生の集まりや楽しい情報ございましたらお知らせください。

「拓北(たくほく)会」の由来
東北仙台以北の工学部建築工学科のある

拓北会ホームページアドレス

<http://www.archi.hi-tech.ac.jp/takuhoku/>

建築工学科公開講座



本年度の建築工学科公開講座の第一回目が七月十二日(土)に八戸福祉公民館で行なわれました。

土木建築工学科開設記念行事が行なわれます



HPアドレス: <http://www.archi.hi-tech.ac.jp/>

八戸工業大学工学部土木建築工学科開設記念講演会
日時:
平成二十年十一月七日(金)
午後四時〜十七時三十分
会場: 八戸グランドホテル
入場: 無料
詳しくは学科ホームページをご覧ください。

二〇〇八年度建築学会賞(論文)を受賞されました橋本典久八戸工業大学教授の講演会を開催いたします。

第一回目の講座は「水道の蛇口はなぜ使にくい?」というタイトルで、宮腰先生による日常生活の中の心理学についての話でした。公共施設に見られる水道の蛇口や旅先で見かけた洗面台などの水周りを写真で示しながら、道具の使いやすさについての講演を一時間程度行ないました。

本年度は第二回の講座を十月十一日(土)に、同じく八戸福祉公民館にて行ないます。第二回の講座は「地震になると、ここが危ない!」と題して、毛呂先生が地震の被害と対策について講演します。つい先日、岩手県沿岸北部地震が起きたばかりだけに、大変興味が行ないました。

味深い内容になると思われます。八戸近郊にお住まいの方は、聞きに来てみてはいかがでしょうか?
日時: 十月十一日(土)
午前十時〜十二時
会場: 八戸福祉公民館 手話教室
受講対象者: 建築、住宅に興味のある方はどなたでも参加できます。
募集人員: 三十名
参加費: 五百円(資料代含む)
申し込み締切: 十月九日(木)
申し込み方法: FAXまたはE-mail
問い合わせ・申込先: 建築工学科 公開講座係
TEL: 0178-25-8276
FAX: 0178-25-6218
E-mail: miyakoshi@hi-tech.ac.jp

第6回うみねこ会 ご案内

毎年恒例のシステム情報工学科同窓会「うみねこ会」を学園祭初日に開催します。今年で6年目を迎え、毎年多くの教職員・卒業生が集まっていますので、是非御参加ください。

開催日：平成20年10月18日（土）
＜学園祭1日目＞

内容：

●第一部 うみねこ会幹事会（会議）

日時：14:30～15:30

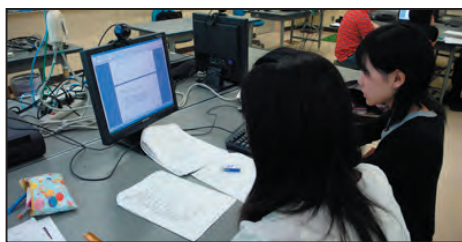
会場：システム情報工学
専門棟2階1210

●第二部 懇談会

日時：18:30～（予定）

会場：未定（参加予定者
に後日連絡します）

申し込み先：katsuji@hi-tech.ac.jp



七月十日（木）より、ICT（情報通信技術）スペシャリスト育成講座「カードリーダー・ライタを利用したアプリケーションシステムの開発」が行われています。本講座は、平成二十年度あおもりOSS（オープンソースソフトウェア）中核人材育成事業に採択されたものであり、OSSを活用してカードリーダー・ライタを利用したアプリケーションプログラムを作成することによって、基本設

計、詳細設計、プログラム製造、システムテストまでの一連のソフトウェア開発作業の基本（開発技術、管理技術）を習得します。また、実践的な教育を行うため、地元IT企業のサクサシステムエンジニアリング（株）より派遣された、実際にシステムを構築している社員が講師を務めています。このシステムは、カードリーダー・ライタ、組み込みボード（Linuxが動作するシステム装置）、受講者用の端末PCから構成され、学生はこのハードウェア制約の下で「リペイドカードシステム」、「出席管理システム」、「出勤・退勤管理システム」などを作成して十二月の発表会までに実機で動作するシステムを完成させます。

システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

目指せ！ICTスペシャリスト！
～ICTスペシャリスト育成講座開催～

メディアスタジオの完成！

かねてより、学生から・各種コンテンツに声を吹き込みたい（ナレーション挿入）・動画に音を入れたい・スタジオで生音録音及び放送したい・MIDI音源を編集したいなどの希望があり、本年三月写真の通り、ようやくハードが完成致しました。場所はシステム情報棟の一階で、旧小玉研究室を空調完備のメディアスタジオに改修致しました。未だ機材（ミキサー・編集装置、マイク、録画装置、照明器具等）が十分に揃っていませんが、今後段階的に揃えていきたいと考えています。また本スタジオは防音が完備していて、例えばこれまで学生が録音する際、昼間ノイズに悩まされた結果夜中迄待つてナレーション吹き込みをしていた問題が一挙に解決致しました。将来的には、このメディアスタジオをインターネットに繋いで、学内・学外へ一科特製コンテンツを発信したいと考えています。卒業生を含め、興味のある方は是非メディアスタジオをご訪問下さい！



ゴール直前で無念のリタイア！ ～E.T.ロボコン2008への参加～

E.T.ロボコンは、レゴブロックで作成した同一のハードウェア（車体）を用いて、ソフトウェアの開発技術を競うもので、今年度は全国で291チーム（内企業163チーム）が参加しています。全国五箇所地区大会を行い、好成績を収めたチームが十一月に横浜で開催される全国大会（チャンピオンシップ大会）に出場することが出来ます。



中の上位三位までに入ったものの、二回目はゴール直前で車体が停止するというアクシデントに見まわれ、残念ながら上位入賞と全国大会への出場を逃しました。

新任教員紹介



笹原 徹 准教授

初めまして、本学に新しく赴任しました笹原です。システム情報工学科に所属していますが、専門はコンピュータを全く使わない

東北地区大会は八月三十一日（日）に岩手県立大学で開催され、本学科からは山口研究室が初参加しました。一回目の走行競技（タイムレース）では参加26チーム

参加しています。今回の経験をバネに来年度は全国制覇（？）を目指します。どうぞご期待下さい。また、今後学内での走行会等も計画しています。随時学科のブログに掲載していきますので、こちらもご覧下さい。

純粋数学で、実は数値計算すらしたことがありません。周りの研究室は社会に役立つ研究をしている中、ただ一人、役に立たなそう数学の未解決問題に取り組んでいます。本学に赴任する前は、大学以外にも高専と予備校で数学を教えてきましたが、ここに来てその難しさを再認識しています。担当している科目の試験合格率を百パーセントにすることを目標にしていますが、はたしていつのことになるやら。

八戸工業大学学匠会通信

「近況報告」

エネルギー工学科第三期生

安富 二夫

第三回卒業生の安富です。大学を卒業して二十一年の歳月が立っています。精神年齢は余り成長しておりません。近況報告との事で、お話を頂きましたので最近の自分が勤めている会社や自身の近況を報告させて頂きます。

現在、勤務している会社は荏原エンジニアリングサービス(株)です。業務内容は(株)荏原製作所が建設施工した、ごみ焼却施設や水処理施設のメンテナンス工事が主力事業になっており、仕事の殆どが各自治体からの直接受注にて成り立っている会社です。十数年前までは環境事業が脚光を浴びて、平成十五年頃までは企業グループ内の景気も良かったのですが、ここ最近是不況の影響などで自治体自体の税収の減少や、労働安全衛生法などの改定による作業制約などの問題が発生したこともあり、環境事業自体が再編する状況にあります。そのためか、親会社の(株)荏原製作所の環境部門と、現在私のいる荏原エンジニアリングサービス(株)が来年度に統合される予定

です。しかし、このような状況の中にあっても、作業物量が増える一方で。

私的な近況としては、去年八戸市内に住宅を三十五年ローンにて購入しました。日当たりは良好で、物置小屋は現在制作中で完成は来年の五月を目途に製作しています。

研究紹介

「小さなマイクロバブルの大きな効果」

生物環境化学工学科 教員 伊藤 幸雄、小林 正樹、高橋 晋

皆さんは、バブル・泡と聞いて何を思い浮かべますか?…水中にある球状の気体でしょうか。水中を浮上して、水面で壊れる泡でしようか。石鹸でしようか。炭酸飲料でしようか。

マイクロバブル(Micro-Bubble)は、直径数10 μ m程度のバブルで、水中での浮上速度が非常に遅い(たとえば、10 μ m直径のバブルの上昇速度は50 μ m/sで、水面に到達する前に水中で消滅したり、水中に長い時間存在したりします。MBの特徴をまとめて書いておきます。

マイクロバブルの特徴

収縮性 (マイクロサイズ以下の気泡は、従来のミリサイズ以上の気泡とは異なり、上昇しながら収縮し、水中で消滅します。)

帯電性 (気泡はマイナスの電位を帯びており、プラスのものに付着しやすい性質を有しています。すなわち、汚れなどのプラスの物に付着しやすい性質を有しています。)

衝撃圧力作用 (気泡圧壊時に大きな衝撃を発生、周辺の物質に作用)

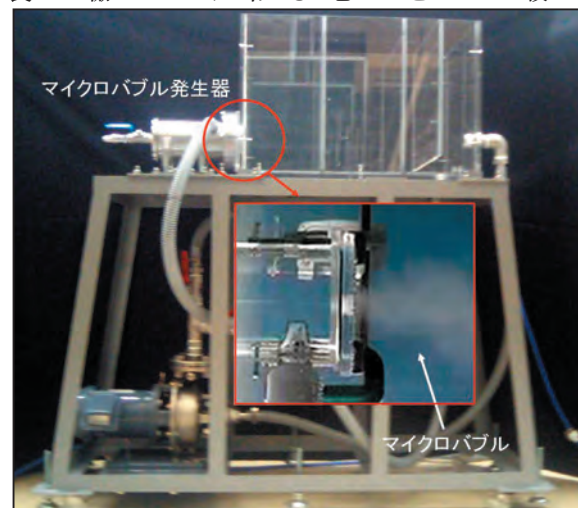
酸化作用 (気泡圧壊時に局部的に高温高圧状態となり、フリーラジカルが発生、酸化作用を示す)

生理活性効果 (マイクロバブルの極小泡が細胞を刺激し、生物の血流や成長を促進させます。水中の溶存酸素を増やし、酸欠を防ぎます。)

MB利用装置はコスト・ランニングコストが安価で、環境負荷も極めて少ない装置と言えます。そのため、応用面を考えると、MBによる液体への吸収性、拡散性、生物への活性作用は、

水処理、魚貝類の殺菌、ホタテなどの生理活性、酵素活性、半導体・液晶面などの洗浄、水耕栽培、および混合など、地場産業の活性化あるいは産業の環境調和化に役立つことがわかります。

学科学では、いろいろな専門の先生が協力して、たとえば、物体表面の洗浄、食



品加工工場からの廃水中の固形物の分離・回収やBODの低下、海水中の溶存酸素濃度の改善によるあわび・ウニの養殖改善や生理活性、水耕栽培への利用、オゾンによる殺菌効果による促進・浄化、清酒の分子構造の変化などについて幅広く研究を進めつつあります。

卒業生の皆さんは、多種多様な業種に係っていますので、一度寝る前にでも、マイクロバブルで何かできないかな?…と考えてみてはどうでしょうか。きっと役立つことにたります。

皆さんのますますのご活躍をお祈りいたします。

在学中に日本学生支援機構(旧育英会)奨学金の貸与を受け、まだ返還が終了していない同窓生のみならず、滞りなく返還していますでしょうか。みなさまが返還する奨学金が、そのまま後輩の奨学金として活用されていることはご承知のことと思いますが、その返還率が思わぬ影響を与えています。平成20年3月末現在、本学の奨学金返還状況は、下表のとおり全国平均を下回っています。この状況にありを受け、毎年本学に対する新規奨学生の募集枠が減らされていて、その結果、経済的に困難な学生でも推薦枠から外れるといった事態が生じています。みなさまの後輩たちが安心して学生生活を送れるよう、先輩奨学生の方々はこれからも責任を持って返還しましょう。

八戸工業大学学生課 奨学金担当 熊谷育子

※電話による相談・照会先日本学生支援機構

返還相談センター 0570-03-7240 (ナビダイヤル・全国共通)

PHS・一部携帯電話・ひかり電話及び海外からの電話は03-6743-6100

※日本学生支援機構ホームページアドレス…http://www.jasso.go.jp/

奨学金の貸与を受けた皆さん
返還は大丈夫ですか?

区分	八戸工業大学	全国平均
奨学金第一種	延滞率 8.7%	延滞率 7.0%
	延滞者数 26人	延滞者数 25,042人
	要返還者数 299人	要返還者数 356,947人
奨学金第二種	延滞率 10.8%	延滞率 9.7%
	延滞者数 66人	延滞者数 46,196人
	要返還者数 610人	要返還者数 478,121人
合計	延滞率 10.1%	延滞率 8.5%
	延滞者数 92人	延滞者数 71,238人
	要返還者数 909人	要返還者数 835,068人

平成二十年度支部総会報

今年度も各支部総会が盛会に催されました。秋田支部会場には環境建設工学科の、そして東北支部会場にはシステム情報工学科の新卒同窓生が参加して、恩師との再会を喜んでいました。各総会では若年層の参加者が少ないことが懸念されていますが、このように年齢を問わず楽しめる会合ですので、ぜひ若手同窓生のみならずも機会があれば気兼ねなく参加してほしいと思います。

なお、北海道道南・道東の各分会総会は、今年度本部総会を北海道で開催する理由から開催を見送りました。

秋田支部総会

六月二十八日(土)

午後六時三十分 協働大町ビル

同窓生十七名 教職員六名



東北支部総会

七月十九日(土)

ボウリング大会

午後三時

仙台プレイボウリング

同窓生十五名 教職員四名



総会

同日 午後六時

ホテルリッチフィールド仙台

同窓生四十名 教職員十一名



同窓会報が新しく生まれ変わります！

同窓会員のみなさまへ

サービスの一環として発行してまいりました同窓会報ですが、来年度から発行回数が年一回(発送時期未定)になります。これまで年二回、九月と三月に発行して参りましたが、年々増加する送付部数に対し収入は少子化の影響により落ち込み、収入に対して同窓会報に係る経常費が大きくなってしまうことがその要因にあります。

そこで本会では、本誌の発行回数が年一回になることで、会員のみなさまに対するサービスが低下しないよう、中身を充実させることで向上を図りたいと考えています。具体的には、従来すべて本部事務局で行っていた編集作業を株式会社イーピーエスに委託し、より見やすい本格的な会報誌になります。ページ数は八ページから十二ページに増大し、来年度に足する感性デザイン学科同窓会への対応や、より広い範囲での広報が可能になります。

また、会員状況届はハガキから携帯電話やフリーファックスへと変わり、ますます手軽になるなど、大きく一新します。

ただし、中身が充実されるため、一回に掛かるトータルコストは従来に比べ高額になり、送付部数が増え続ける限り、数年後にはまた現在のような状況に陥りかねません。その対応策として六月に開催された代議員会において、次号から「会報維持経費」の名称で、本誌発行のための協力を募ることが決定いたしました。手にとって大学の近況や同窓会の活動状況をお知らせすることが出来る本誌を、今後とも永続的に発行していけるよう、多くのご支援ご協力をお願い申し上げます。

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

本部事務局(学務部学生課)

TEL: 0178-25-8027

E-mail: dosokai@hi-tech.ac.jp

機械工学科・産業機械工学科・機械情報技術学科(機械情報技術学科事務室)

TEL: 0178-25-8010

E-mail: dosokai-m@hi-tech.ac.jp

電気工学科・電気電子工学科(電子知能システム学科事務室)

TEL: 0178-25-8020

E-mail: dosokai-e@hi-tech.ac.jp

土木工学科・環境建設工学科(シビル会事務室)

TEL: 0178-25-8067(8030)

E-mail: dosokai-c@hi-tech.ac.jp

建築工学科(建築工学科事務室)

TEL: 0178-25-8040

E-mail: dosokai-a@hi-tech.ac.jp

エネルギー工学科・生物環境化学工学科(生物環境化学工学科事務室)

TEL: 0178-25-8050

E-mail: dosokai-p@hi-tech.ac.jp

システム情報工学科(システム情報工学科事務室)

TEL: 0178-25-8080

E-mail: dosokai-i@hi-tech.ac.jp

同窓会事務局から

▼ご家族の方へ

本誌同窓会報をご家族の方が見て同窓生本人が見ていないことがあるようです。お手数ですが、ご子女に了承いただき同封のハガキにご子女現住所等必要事項をご記入のうえ、ポストへご投函下さるようお願いいたします。

▼同窓生の皆様へ

会報が届かない、見たことがないといった同窓生がおりましたら、本部事務局まで、電話またはメールで送付先(氏名、現住所、学籍番号または卒業年科)を連絡するようお願いいたします。また、現住所等変更になりましたら、速やかに同窓会事務局までご連絡下さるようお願いいたします。